

令和 7 年度 天沼小学校 学校評価

みんなの天小アンケート

結果報告

分かる取組

人とかかわる取組

元気に育つ取組

体験・交流

家庭・地域との連携の推進・強化

子ども主体の学びを通じた
ワクワクする学校づくり



令和8年3月

杉並区立天沼小学校学校運営協議会

会長 渡部 公威

杉並区立天沼小学校

校長 薩摩 博之

令和7年度 みんなの天小アンケート結果のご報告

みんなの天小アンケートを通して目指すもの



このアンケートは、天沼小学校の目指す学校の教育目標や、育てたい子ども像の実現のために、今年度1年間に実践してきた主たる教育活動について、様々な立場の皆様から評価をいただき、学校運営協議会にて、その成果や課題に考察を加えて、次年度の教育計画や教育活動の改善に役立てる取組で、主に以下の内容を目指します。

- (1) 児童・保護者・地域の方と連携を深めながら、一人ひとりの子どものよりよい育ちを促すために、天沼小学校の教育への理解を深めること
- (2) 天沼小学校の教育活動をより推進するための評価を責任をもって行い、学校教育活動への参画意識を高めること
- (3) 「安全・安心な教育環境の実現」という視点から、施設・組織としての学校運営のあり方について連携と認識を深めること

全体の傾向からみた考察



今年度の「みんなの天小アンケート」は、保護者の回収率が74.7%と高く、多くの皆様にご協力いただきました。

アンケート全23項目（設問数29）の結果を概観すると、「そう思う」と「ややそう思う」を合わせた肯定回答率は、多くの設問で8割以上となっており、学校の教育活動に対して全体的に高い評価をいただくことができました。

子どもたちからも高い評価が得られていますが、内訳を見ますとそれぞれが真摯に設問に向き合い、学齢、発達の段階に応じて正直に回答している様子がうかがわれました。

また、これまで「判断がつかない」と回答されやすかった、スクールカウンセラーに関することや、小中一貫教育、授業中の様子などについて、今年度は「判断がつかない」が減少する傾向が見られました。

これは、学校や学校運営協議会が冊子の配付やホームページ等を通して、学校の様子や取組についての情報発信を重ねてきたことが、成果として表れてきたものと考えています。

「判断がつかない」の回答が減っていることは、学校と家庭・地域の間で情報の共有が進み、互いの理解が深まっているサインでもあります。

一方で、アンケートや紙面だけでは伝えきれないこともあります。子どもたちの表情や学び合いの様子、教室の雰囲気は、実際に学校へ来て見ていただくことで初めて実感できる面が大きいからです。

今後も、学校からの分かりやすい情報発信を継続するとともに、授業公開や行事など、学校に足を運んでいただける機会を大切にしていきます。そうした場を通して、保護者・地域の皆様と学校が同じ目標を共有し、子どもたちの成長を一緒に支えていけるよう、連携をさらに深めていきます。

ご報告の記載方法



- 一番上に「設問」を、次に「アンケート結果グラフ」を掲載しています。
- 「次年度に向けて」は、アンケート結果や皆様からのご意見等を踏まえ、学校運営協議会にて考察し、次年度の学校運営にどのように反映していくかを協議した内容を記述しています。
- 保護者・地域の皆様と共に進めていきたい、よりご理解いただきたい教育内容についても記載しています。
- 最終的には、学校運営協議会委員に加え、第三者の有識者を含む「学校関係者評価委員会」にてさらなる協議を行い、この冊子にまとめております。



令和7年度 天沼小学校「みんなの天小アンケート」協力への御礼

天沼小学校学校運営協議会 会長 渡部 公威

日頃から天沼小学校の教育活動及び学校運営協議会の運営に、ご理解ご協力をいただき誠にありがとうございます。

今年度の「みんなの天小アンケート」の結果がまとまりましたので、ここにご報告させていただきます。

子ども主体の学びを通したワクワクする学校づくり」を学校と共に進めてまいりましたが、たくさんの質問項目において、「肯定的回答」が増え、大変うれしく感じております。

杉並区で実施している「教育調査」アンケート並びに、この天沼小学校独自のアンケートの結果を基に、来年度の教育内容を考えていきますが、学校運営協議会は、少しでもそのお手伝いができるように協力させていただきます。

多くの方からのアンケートへのご協力、改めて感謝申し上げます。

1.

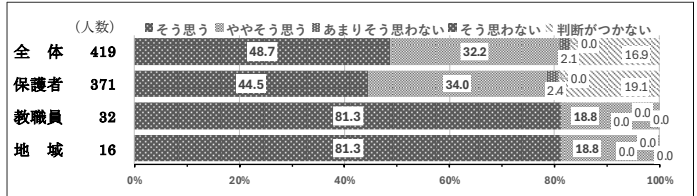
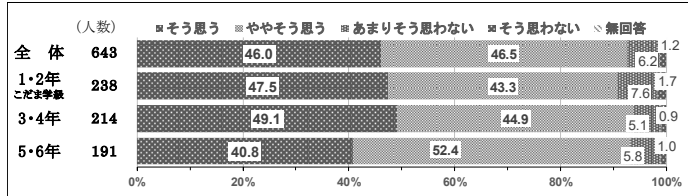
「子どもの主体性を引き出す」分かる取組

①「あまぬま学びの約束」の実践

- 設問1 1・2年生・こだま学級 あまぬま学びのやくそくがわかり、守っています。
 3・4年生 「天沼のきまり」「あまぬま学びの約束」など、学校生活のルールを守って生活しています。
 5・6年生 「天沼のきまり」「あまぬま学びの約束」などのルールを守り学校生活を送っています。
 保護者・教職員・地域 「あまぬま学びの約束」に基づいた授業運営が行われている。

そう思う, ややそう思う の合計	
今年度 93%	昨年度 94%

そう思う, ややそう思う の合計	
今年度 81%	昨年度 85%



次年度に向けて

学校生活の基本ルールである「あまぬま学びの約束」については、低学年のうちから継続的に取り組んでいきたいテーマとして今後も続けていきます。

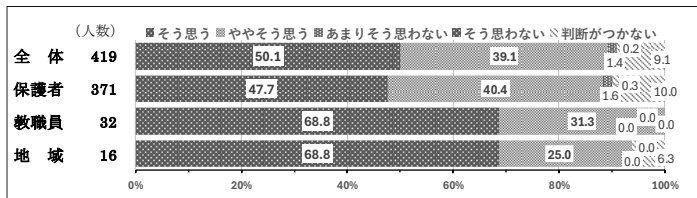
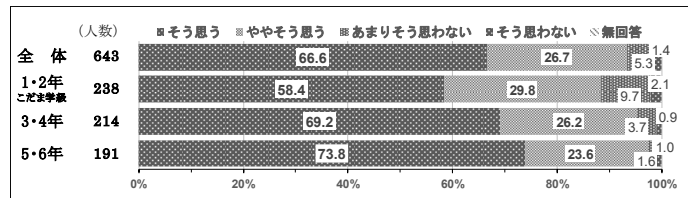
あいさつや帰宅時間、遊ぶ時間など生活における規範についてはぜひ家庭でも取り組んでいただき、学校と家庭が連携して基本的な生活規範を育てていけるよう、ご協力をお願いいたします。

②すべての教育活動での言語活動の充実

- 設問2 1・2年生・こだま学級 授業では友達の話や自分の考えを発表したりする時間があります。
 3・4年生 授業では、話し合ったり考えを発表したりする活動する時間があります。
 5・6年生 授業中に話し合い活動や振り返りの活動の時間があります。
 保護者・教職員・地域 授業では、文章の読み取りの機会、自分の考えを発表する機会や、話し合い活動を通して意見交流できる機会が設けられているとともに、振り返りの活動の時間が設けられている。

そう思う, ややそう思う の合計	
今年度 93%	昨年度 93%

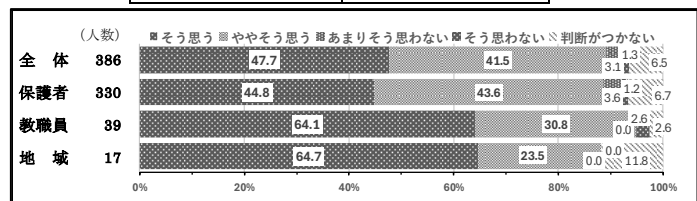
そう思う, ややそう思う の合計	
今年度 89%	昨年度 86%



設問3

保護者・教職員・地域 授業を通して、学びの基本となる「聞く」「話す」「読む」「書く」力が養われている。

そう思う, ややそう思う の合計	
今年度 89%	昨年度 89%



次年度に向けて

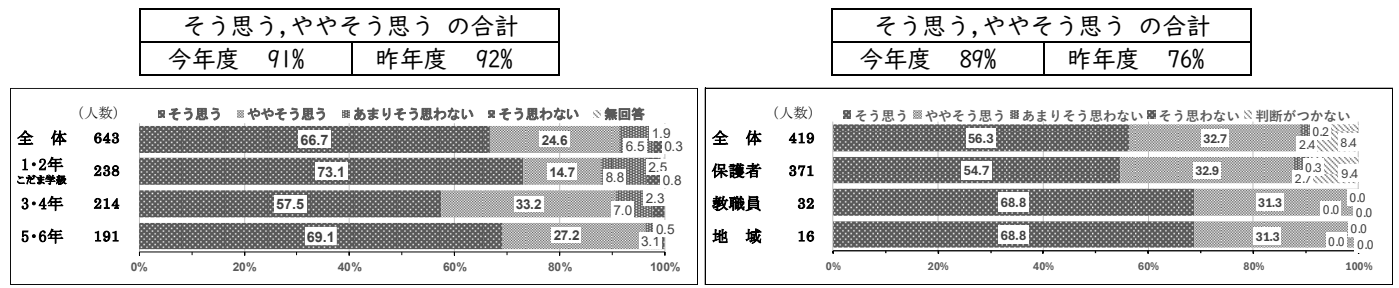
アンケート結果を見ますと、学校におけるすべての教育活動において、自分で考え、自分の言葉で伝え、他者の意見をしっかりと聞く力を養う機会が、学習の中で積極的に設けられていることに対して、高い評価をいただいています。

特に中高学年の子どもたちからの高い評価から、子どもたち自身が学校の言語活動を通じて「聞く」「話す」「読む」「書く」力がついてきていると実感している様子がうかがえます。これからの社会では、こうしたコミュニケーション力がとても重要になっていきます。

今後も引き続き「聞く」「話す」「読む」「書く」力をバランスよく育てる指導、さらに発表のときには原稿に頼らず、自分の言葉で話す力を養えるように取り組んでいきます。

③子どもの「自己選択・自己決定」を大切に活動の推進、拡大

設問 4	1・2年生・こだま学級	授業や係の活動では、先生は話し合いで出た意見を聞いてくれます。
	3・4年生	授業で課題や進め方を自分で決めて調べたり、係活動やクラブ活動（4年生）で自分たちが活動内容を考えて決めたりすることがあります。
	5・6年生	授業で課題や進め方を自分で決めて調べたり、係活動、クラブ活動、委員会活動で自分たちが活動内容を考えて決めたりすることがあります。
	保護者・教職員・地域	授業で子どもたちが課題を決めて学習する機会や、係活動、クラブ活動、委員会活動で子どもたちが活動内容を決める機会が設けられている。



次年度に向けて

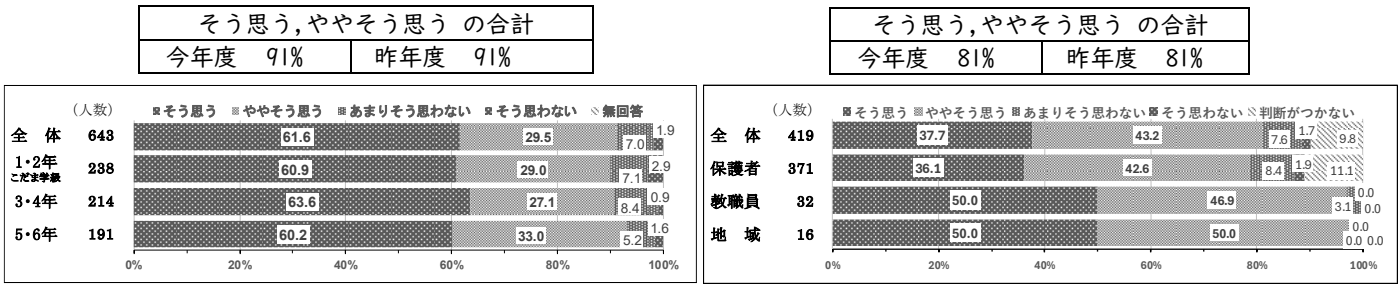
子どもたちの学習意欲を高めるために、授業では、教員が子どもたちの声を聞いて取り入れたり、子どもたち自身が取り組むべき課題を決めて学習する機会、授業以外でも子どもたち自身で活動内容を決める機会を設けたりして、子どもたちの自主性を意識した授業運営を進めています。

アンケート結果では、この取組に対して全般的に高い評価が得られました。

子どもたちからは学年が上がる毎に評価が高くなり、特に5、6年生において非常に高い評価が得られていることから、子どもたちの成長とともに意欲と責任感の高まりが実感できます。次年度においても、引き続き、子どもたちの学習意欲を高める授業の進め方を研究、推進していきます。

④個に応じた学習指導の実施

設問 5	1・2年生・こだま学級	算数少数数の授業では、勉強のはやさが自分に合っていて、わかりやすいです。
	3・4年生	算数少数数の授業では、学習の進め方が自分に合っていて、わかりやすいです。
	5・6年生	算数少数数授業では、自分に合った速さで学習ができ、内容の理解につながっています。
	保護者・教職員・地域	多様な指導方法により、子ども一人ひとりが意欲的に取り組める学習環境が整えられている。



次年度に向けて

子どもたちの肯定回答率を見ますと、算数少数数指導に関しては、日々の取組が成果につながっていると感じられる結果となりました。

児童数が増加傾向にありますが、今後も一人ひとりの学習状況に合わせた指導を継続していきます。

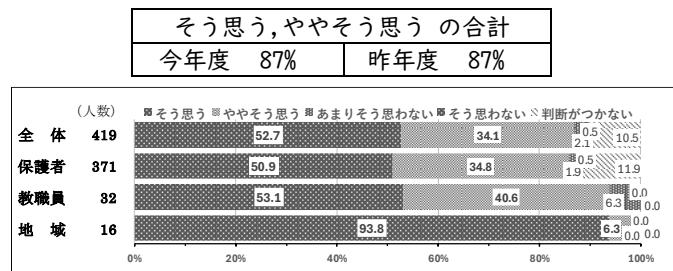
天沼小の算数の学習

担任に加え算数少数数担当教員等との連携により、4学級を5つ、3学級を4つ、また2学級を3つに分ける等で授業を行い、学習の目的や内容に合わせ、個々に合ったきめ細やかな指導方法を取り入れています。それにより、一人ひとりが意欲的に取り組める学習環境がつくられています。

また、習熟度別指導の方法として、1年生は1学期には、学校生活に慣れることを優先させるため、学級ごと複数の教員による指導を行い、学習が進んでからは習熟度別と分け方を変え、2年生以上は「どんどん・すくすく・じっくり」などのコースに分けて、基礎・基本部分の学習を確実に行っていき、また、理解の早い子どもはさらに発展問題等に取り組むなどの工夫をしています。

⑤教員の専門性の向上を図り、専科指導の充実や全学年交換授業を実施

設問 6	保護者・教職員・地域 教員が専門性を発揮して、一部の教科等を専科教員が担当したり、学年内で担任（教員）が入れ代わり教える交換授業を実施したりするなど、教員の指導力の向上を図るとともに、子どもたちの学習効果を高める工夫が行われている。
------	---



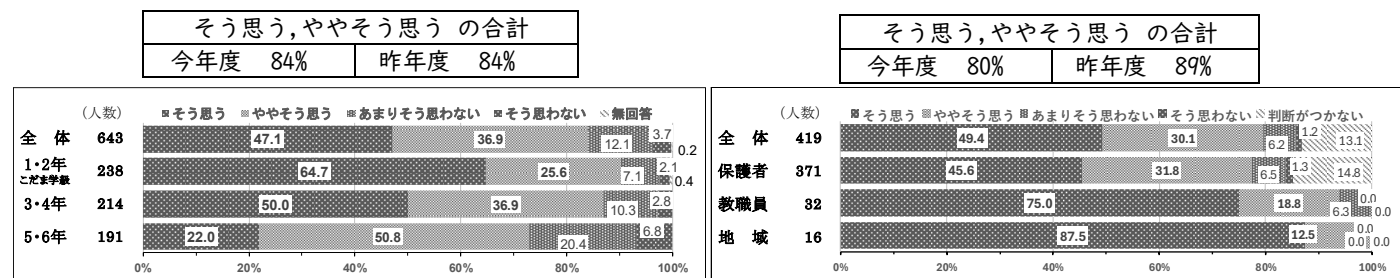
次年度に向けて

天沼小では、4年生以上の学年で専科制を採用したり、他の学年では教員毎の専門性を生かしたりして教育を行うことを目指しています。今年度は、音楽、理科、図画工作、外国語（5・6年生）の各教科を専科の教員や講師が担当したほか、6年生では年間を通して交換授業を取り入れ、他学年では部分的に交換授業を取り入れてきました。

次年度も引き続き、子どもたちの学習効果を高めるためにさらなる指導力の向上と指導体制の構築に取り組んでいきたいと考えています。

⑥基礎学力定着のための取組

設問 7	1・2年生・こだま学級 チャレンジタイムでの学習にがんばって取り組んでいます。
	3・4年生 チャレンジタイムで学習することで、より力がついています。
	5・6年生 チャレンジタイムで学習することで、より力がついています。
	保護者・教職員・地域 授業の他にさまざまな取組 ^(*) を通して特に国語についての基礎・基本的な学習が定着するための機会を設けている。 (※) 例えば、フォローアップタイム（火曜日）、ハッピーすたでい（木曜日放課後）、ハッピーいんぐりっしゅ（金曜日放課後）、チャレンジタイム（月～金曜日）等



次年度に向けて

保護者・地域の皆さまからも国語の基礎学力の向上についてのご意見をいただいております。今年度途中から「チャレンジタイム」を用いた学習時間で、低・中学年は主に漢字や記述等（「書く」力を育てる）の国語の基礎学力定着に取り組んできました。

すべての学習の基礎となる国語力はすぐに成果を感じられるものではないですが、日々の繰り返しによって伸ばすことができますので、次年度も同様の取組を続けていきます。

「フォローアップタイム」等の取組についても、多様な学習機会の一つとして、今後も有効に活用していきたいと考えます。

どちらの取組も保護者への周知がされている一方で、活動内容はなかなか見えないところがあります。子どもたちがどのような学習をしているかぜひご家庭でも話してみてください。

これらの活動は、継続して取り組むことが成果につながっていきますので、次年度以降も、放課後子ども教室（算数・英語）でも学校支援本部等の地域協力者と教員との連携をしっかりと図り、学齢に応じてより効果的な学びの場を設けて継続していきます。

令和7年度「天沼小学校が目指す教育」は、

子ども主体の学びを通したワクワクする学校づくり～豊かな学びを目指して～

をグランドビジョンとして進めてきました。



「子どもの主体性を引き出す」分かる取組 について

みんなの天小アンケート児童の評価から見られる「分かる取組」の成果

今年度は、子どもたちの主体性を大切にした授業を進めてきました。
その結果、特に以下の項目については、子どもたちの高評価を得ています。

②すべての教育活動での言語活動の充実

3、4年生の肯定評価は95.3%、5、6年生は98%であり、授業中の話し合い活動や発表、振り返り活動の時間がよく取られていることが分かります。

③「自己選択・自己決定」を大切に活動の推進、拡大

この取組についても、3、4年生の肯定評価は90.5%、5、6年生は96.5%と、子どもたちに浸透してきている様子が分かります。

日々の学習や生活の中で、子どもたちの自己選択・自己決定を大切にし、自分で考える、自分で決める、自分で課題を立てる、自分で学習計画をたてる、解決に向けて取り組む、友達と交流するなどの学びを進めることは、子どもたちの主体性を育みワクワクしたものにつながると考えます。

今後も、家庭・地域との連携を通して、子ども主体の学びを進めることで、「自分たちの学校・地域に愛着と誇りをもち、夢を切り拓く子どもたち」を育てることを目指していきます。

サマーワークショップ・3校合同学校運営協議会講演会での学びを生かして

毎年、学校運営協議会主催で行っているサマーワークショップ・茶話会（教職員・保護者・地域関係者で学び合う会）、3校合同学校運営協議会（天沼中・沓掛小・天沼小の学校運営協議会委員による合同学習会）で、今年度は「変わりゆく学校教育に私たち大人がどう対応するか」「子どもの主体性を支えるための視点」等について教職員の皆さんと共に学びました。

現在の学校には、「社会性を学ぶ場」「多様な価値観を知る場」「安心して過ごせる居場所」としての側面がある。そして、子どもがルール作りに関わる機会が増え、主体的な学びが進んでいることへの肯定的な意見が多く出され、私たち大人は「子どもたちの社会的自立を見通して関わっていくこと」が大事なのだということが示されました。

また、これからの学校の授業では、教師が一方向的に教えるだけでなく、子ども自身が「考え、話し合い、学ぶ力を伸ばす」ことが大切です。何を覚えたかだけでなく、学びを使って「何ができるようになったか」を重視し、友達との対話や発表、探究的な学びを通して、理解を深めていく授業が求められています。

つまり、知識を生きた力として身につけることが目的であるということを学びました。

さらに、学校・家庭・地域で連携しながら、子どもたちから話を聞くこと、褒めることを繰り返しながら、子ども自身の言葉で話せるように育むことが「子どもたちの社会的自立」に向けての支援につながるというヒントも共有されました。

2.

「子どもの主体性を引き出す」人と関わる取組

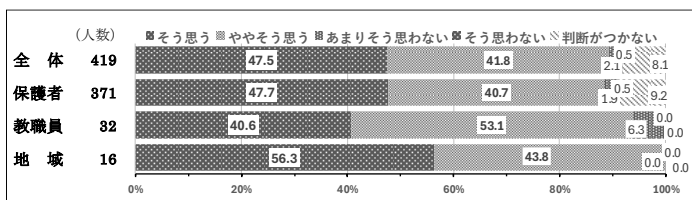
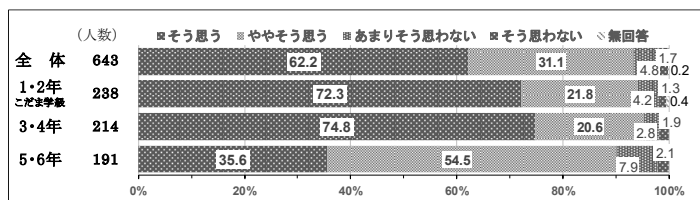
⑦規範意識の醸成

設問 8

1・2年生・こだま学級 きまりを守ることの大切さを教わっています。
 3・4年生 人と協力すること、助け合うなどの大切なことを学んでいます。
 5・6年生 高学年としての自覚を持ち、きまりやルールを意識して行動しています。
 保護者・教職員・地域 社会のきまり・ルールを意識する指導が低学年、中学年、高学年それぞれの学齢に応じて行われており、その学齢に応じた判断力が育まれている。

そう思う, ややそう思う の合計	
今年度	93%
昨年度	94%

そう思う, ややそう思う の合計	
今年度	89%
昨年度	90%



次年度に向けて

子どもたち、保護者ともに高い肯定回答率が得られました。学校において、規範意識の向上を図り、適切な判断力を身に付けられるように意識して指導を行うとともに、学校支援本部が運営する「ハッピーさたでい」や「ハッピーくらぶ」などにおいて、地域の指導者もこの点を意識した声かけをしてきており、こうした取組が実を結んでいるといえます。

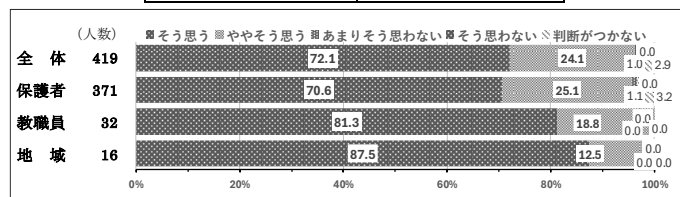
規範意識を育むことは、学校運営協議会としてとても大切な問題として考えています。次年度も引き続き、地域と学校が協働して重点的に取り組んでいきます。

⑧地域に愛着と誇りをもつ子どもを育てる取組

設問 9

保護者・教職員・地域 天沼小と、町会や商店会をはじめとする地域の方々との交流活動^(*)が、子どもにとって天沼地域の一員としての自覚や地域への愛着心を育むのに役立っている。
 (※) 例えば、朝遊び、地域安全マップ作り、天沼会社経営プロジェクト (AKP)、わたしたちの天沼、弁天池公園での花を育てる活動、町たんけん、お店番体験等

そう思う, ややそう思う の合計	
今年度	96%
昨年度	95%



次年度に向けて

地域の方々との交流については、地域社会を構成する一員であるという自覚を育むためにも、継続的に行っていきます。

学校支援本部がコーディネートする地域と連携した活動が、天沼小の大きな特色です。次年度以降、より子どもたちにとってプラスになる取組のコーディネートを進めていきます。

⑨様々な人と関わって生きる喜びを感じさせる取組 (インクルーシブな心の育成)

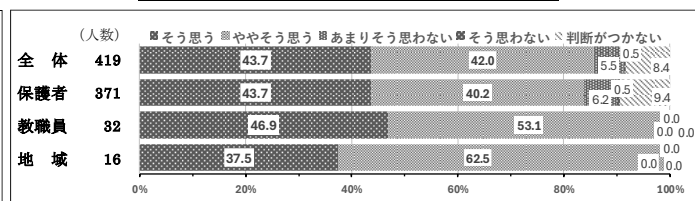
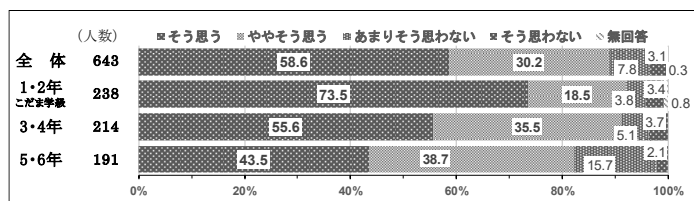
設問 10

1・2年生・こだま学級 たてわりはんの人たちと楽しく遊んでいます。
 3・4年生 こだま学級との交流やたてわり班活動を通し、ともに生活をする仲間として大切に思っています。
 5・6年生 こだま学級との交流やたてわり班活動を通し、ともに生活をする仲間として尊重しています。
 保護者・教職員・地域 「お互いを理解し合い、さまざまな人たちとかかわって生きる喜び」を子どもが感じられるよう、機会^(*)の提供と必要な支援が行われている。

(※) 例えば、こだま学級との交流、副籍交流、全校たてわり班活動、2学年合同の学習、地域の方々との交流、障害のある方々との交流、卒業生との関わり等

そう思う、ややそう思う の合計		
今年度	89%	昨年度 88%

そう思う、ややそう思う の合計		
今年度	86%	昨年度 88%



次年度に向けて

天沼小には通常学級と特別支援学級の子どもたちが共に活動する機会や、たてわり班における異なる学年同士の交流があります。こうした学級、学年の違う子どもたちと接することにより、社会性を育むことができますので、次年度以降も引き続き交流の機会を作っていきます。

また、特別支援学級との交流については、児童数の違いから班や学級によって触れ合う機会に差が出てしまうことがあります。保護者や地域の皆さまからのご意見も生かして、できる限り交流の機会を増やしていきたいと考えています。

また、日々の学校生活はもちろん、総合的な学習の時間等においても、人と関わる取組に向き合っていきます。

引き続きこうした活動をより知っていただくために、学校からの情報の発信に努めて参ります。

各ご家庭でもぜひ、多様性を認め、様々な立場、個性を発揮する人々とともに心地よく生きていくというテーマについて会話を深めていただきたいと思います。



「子どもの主体性を引き出す」人と関わる取組について

天沼小での「人との関わり」の根幹となるのは「インクルーシブ」という考え方です。インクルーシブとは、障害の有無、世代や文化の違いなどによらず、すべての人がお互いを理解し合い、認め合える「共生社会」を目指すことです。

特別支援学級（こだま学級）の設置校としての特性を生かした、インクルーシブな心に基づく豊かな社会性を育む取組、特別支援教室（あまぬま教室）による個々の課題に寄り添う支援のほか、たてわり班活動での異学年の子どもたちの交流活動、多世代の方々との交流学习を進めています。

さらに、教室に入るまでに時間を要する子どもの見守り支援として、支援本部や民生・児童委員の皆様と連携した「ハッピーさばーたー」の取組も行っています。

教員も、校内委員会組織（ICT委員会・体育的行事委員会・文化的行事委員会）※に加えて、「特別支援委員会」を設けています。これは、各学年一名以上の教職員で情報を共有しながら、きめ細やかにチームで対応していけるようにするための工夫です。

これからも一人ひとりに必要な支援を的確に行い、子どもたちの成長を促していきます。

※「校務分掌」という教職員が役割分担して臨む組織編成（部会組織・委員会組織）があります。全教職員がどこかのグループに所属して、指導内容、行事運営、研究推進等について協議し、必要な対応をしながら、よりよい学校づくりを目指しています。

3.

「子どもの主体性を引き出す」元気に育つ取組

⑩体力の向上と健康の増進

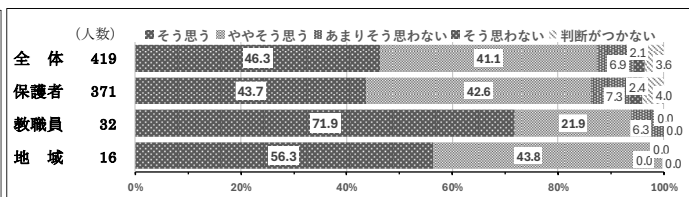
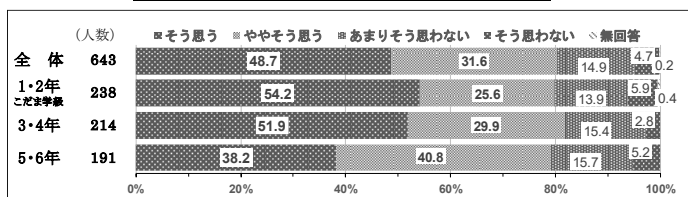
- 設問 11 1・2年生・こだま学級 休み時間や朝遊びで、なわとび、ボール遊びなど体を動かしています。
 3・4年生 休み時間やなわ跳びフェスティバル旬間を通して体力づくりにはげんでいます。
 5・6年生 なわ跳びフェスティバル旬間、持久走記録会旬間などの取組により体力の向上にはげんでいます。
 保護者・教職員・地域 体育の授業に加えて校庭遊びの時間を確保したり、体力の向上と健康の増進を図ったりする取組(*)が子どもたちの心と体の健康づくりに役立っている。
 (*)例えば、なわ跳びフェスティバル旬間、持久走記録会旬間、ゲストティーチャーの招へい、朝遊び、放課後遊び、放課後子ども教室「あまぬまハッピーくらぶ」、土曜日学校「あまぬまハッピーさたてい」等

そう思う、ややそう思う の合計

今年度 80% 昨年度 79%

そう思う、ややそう思う の合計

今年度 87% 昨年度 87%



次年度に 向けて

今年度行ってきた各取組に対して、高い評価をいただきました。
 そのほか、毎年実施している体力調査の結果を見ると、A～E判定（Aが体力高）のうちC判定以上の子どもたちの割合が増えていることが分かっています。
 これは、昨年度の課題を踏まえて学年毎の目標を再確認し、体育学習の充実や自由遊び・クラス遊びなどの取組を工夫してきたことがその成果とみられています。
 来年度は人工芝の設置工事もあり、一定期間校庭が使用できなくなりますが、子どもたちの体力の向上は継続的な課題と考えていますので、引き続き様々な工夫をして臨んでいきます。

⑪給食指導や栄養教諭と連携した食に関する活動への取組など、食育の推進

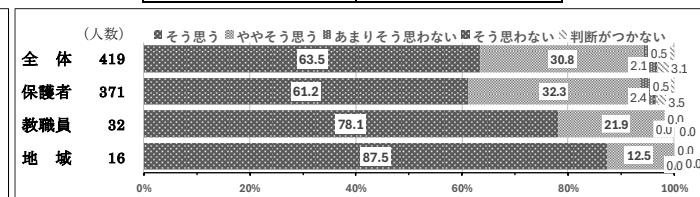
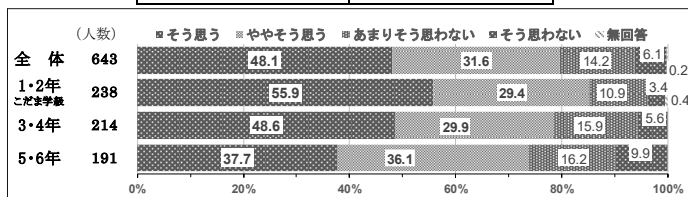
- 設問 12 1・2年生・こだま学級 きゅう食を食べていて、食べ物に興味をもってきています。
 3・4年生 毎日の給食を食べていて、食べ物や栄養に興味を持つようになってきました。
 5・6年生 給食を食べることで、前よりも食べ物や栄養に興味を持つようになっていきます。
 保護者・教職員・地域 メニューや提供の仕方の工夫により、給食が多様性、栄養確保、食べる楽しさが図られ、食への興味を引き出すものとなっている。例えば、季節や伝統行事にちなんだメニューや伝統食の提供、物語に出てきたメニューを再現する図書とのコラボレーション給食、リザーブ給食の実施等

そう思う、ややそう思う の合計

今年度 80% 昨年度 92%

そう思う、ややそう思う の合計

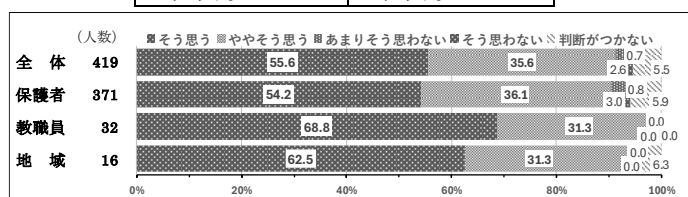
今年度 94% 昨年度 96%



- 設問 13 保護者・教職員・地域 栄養士から提供された食に関するさまざまな情報により、学校で給食を通じた体と心の健康づくりが進められていることが感じられる。

そう思う、ややそう思う の合計

今年度 91% 昨年度 92%



次年度に向けて

栄養教諭と調理員が連携し、多様なメニュー、安全で安心な給食が提供されています。食べ物は体づくりに必要なものですので、子どもたちが食べることへの意識をより高められるように、子どもたちに食にまつわるいろいろな情報を伝えていき、食べているものを知ることで、子どもたちの食に対する興味や好奇心を育むことにつなげていきたいと考えます。昨今、材料費が高騰し、ご心配をおかけしていますが、工夫を凝らすことにより区で決められた栄養価の基準を満たした給食を提供しています。毎月配信している「給食だより」（前月末日に配信）で「食」をテーマにした話題を掲載している他に、以前とは掲載箇所が変わっておりますが学校のホームページにて献立、産地情報など給食にまつわる多くの情報を掲載しています。ぜひご確認ください。

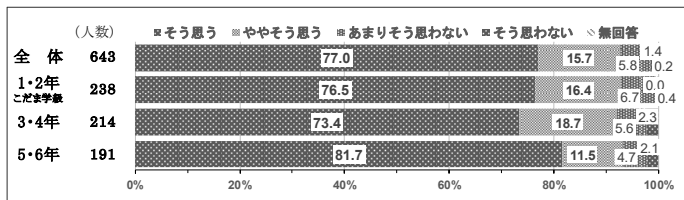
⑫かかわる力の育成

設問 14

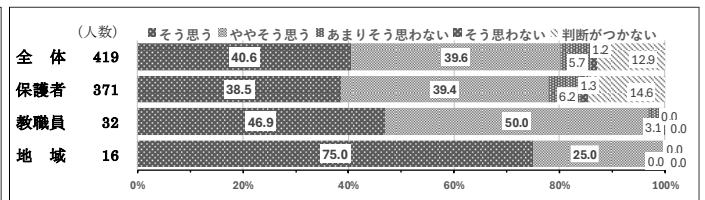
1・2年生・こだま学級 友だちといっしょにあそんだり、べんきょうしたりしています。
3・4年生 休み時間（朝遊びや放課後遊びをふくむ）や勉強の時間に友だちと一緒に活動しています。
5・6年生 休み時間（放課後遊びを含む）や授業を通して友だちとかかわっています。
保護者・教職員・地域 学校生活の中で子どもたち同士が関わり合う力を育むための工夫(*)がされている。

(*)例えば、時程の工夫等による休み時間（朝遊びや放課後遊びを含む）の拡大等、校庭クラス遊び等

そう思う、ややそう思う の合計	
今年度	93%
昨年度	93%



そう思う、ややそう思う の合計	
今年度	80%
昨年度	81%



次年度に向けて

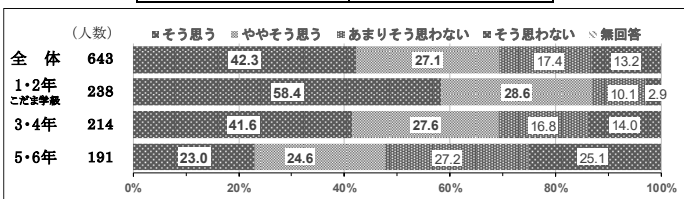
子どもたちが社会性を身につけるためには、学校で子ども同士でのかかわりを増やしていくことが大事だと考えています。子どもたち自身は友達とかかわる機会について肯定的な評価をしていますので、引き続き子ども同士が関わる機会の確保に努めていきます。

⑬担任・養護教諭・スクールカウンセラー等との連携を通じた心の安定を図る取組

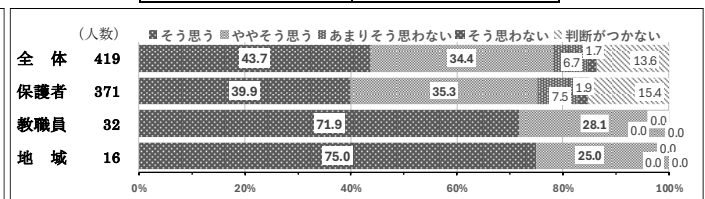
設問 15

1・2年生・こだま学級 こまったときは担任の先生や保健室の先生にそうだししょうと思います。
3・4年生 学習や生活で悩んだ時には、担任の先生や保健室の先生、スクールカウンセラーに相談したり、アンケートに悩みを書いたりしています。
5・6年生 学習や生活の中で悩んだ時には、担任の先生や保健室の先生、スクールカウンセラーに相談したり、アンケートに悩みを書いたりしています。
保護者・教職員・地域 担任や養護教諭、スクールカウンセラーに子どもや保護者が気軽に相談できる環境づくりが行われている。

そう思う、ややそう思う の合計	
今年度	69%
昨年度	73%



そう思う、ややそう思う の合計	
今年度	78%
昨年度	67%



次年度に向けて

例年、学年が上がるに連れて肯定回答率が下がる傾向が見られます。中高学年は、発達段階的にも身近な友達をより大切に考える時期とも言われる一方、多様な子どもたちへの対応は、社会的な問題にもなっています。教員がゆとりを持ち、一人ひとりに寄り添うため、担任を問わずにどの先生にでも気軽に相談できる環境を整えられるよう校務改善に努めていきます。

1、2学期末に個人面談が実施されており、保護者と教員とのコミュニケーションの機会があります。こうした場を教員への相談として利用してみてください。

教員からも、学校でのトラブルなどについて保護者に連絡を取って情報共有を図るなどして、子どもたちの困りごとに対して保護者と連携して対処できるように努めていきます。

学校ではスクールカウンセラーを配置しており、子どもだけでなく保護者も学校のことや友達とのかかわりなど日ごろの悩みについて相談することができます。今年度は金曜を相談日とし、保護者、子どもからの相談に乗っていました。特に子どもからの相談には優先的に応じる形をとっており、1人につき2時間の面談時間を確保して、丁寧に相談に応じています。

また、5年生は必ず全員が面談を行います。

スクールカウンセラーは、「相談」というと堅苦しくなりますので、「おしゃべり」をする感覚で気軽に話しかけてほしいとのこと。気になることがあれば是非相談してみてください。

4.

「子どもの主体性を引き出す」体験・交流

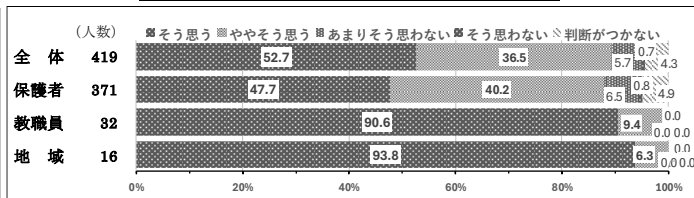
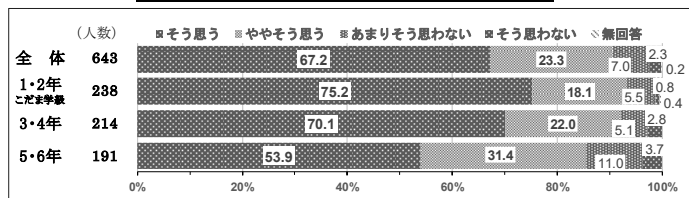
⑭読書活動の充実

設問 16

1・2年生・こだま学級 読み聞かせやお話会、図書の時間を楽しくすごしています。
 3・4年生 お話会、読書旬間、図書の授業など楽しく読書の時間に取り組んでいます。
 5・6年生 お話会、読書旬間、図書の授業など楽しく読書の時間に取り組んでいます。
 保護者・教職員・地域 さまざまな取組(*)を通して読書への関心を高めている。
 (*)例えば、お話会、読み聞かせ、読書旬間等

そう思う, ややそう思う の合計		
今年度	91%	昨年度 94%

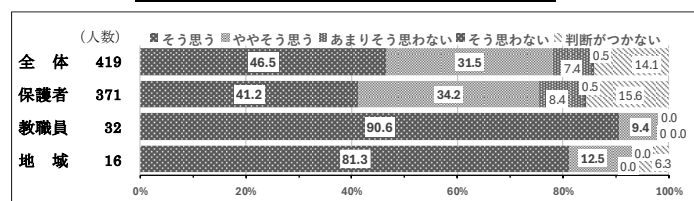
そう思う, ややそう思う の合計		
今年度	89%	昨年度 91%



設問 17

保護者・教職員・地域 教員と学校司書との連携によって授業に必要な参考資料を揃えるなど、あまぬまとしょかん(学習・情報センター)が有効に活用されている。

そう思う, ややそう思う の合計		
今年度	78%	昨年度 79%

次年度に
向けて

あまぬまとしょかんは、木製の素敵な書架に本が並び、子どもたちが自然に本に手をおいたくなる図書館です。また、学習・情報センターとして資料に囲まれた中で、図書の授業が行え、子どもたち自身が必要な情報を採しやすい環境となっています。

電子黒板も設置されているので、ウェブ情報と図書資料の両方を活用した調べ学習が可能になり、教科学習に生かされています。ぜひ、ご家庭で子どもたちに聞いてみてください。

⑮地域と連携した体験的なキャリア教育の実施

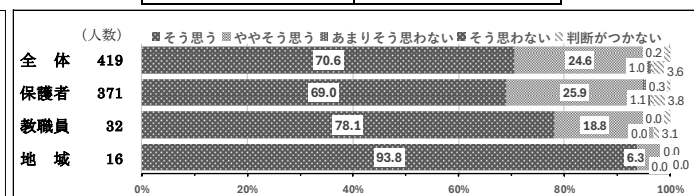
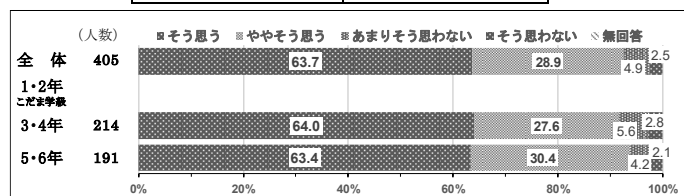
設問 18

3・4年生 お店番体験(3年)や地域安全マップ作り(4年)を通して、自分が住んでいる地域のことや、人々のことがわかるようになりました。
 5・6年生 「AKP(天沼会社経営プロジェクト)」「(5年)や「わたしたちの天沼」(6年)などの学習は、自分の将来の生き方に役立つと思います。
 保護者・教職員・地域 学齢に応じて多彩なキャリア教育(*)が実施されている。

(*)例えば、あまぬままつり(全学年)、町たんけん(2年)、お店番体験(3年)、地域安全マップ作り(4年)、福祉・ユニバーサルデザイン学習(4年)、天沼会社経営プロジェクト(AKP)(5年)、わたしたちの天沼・裁判傍聴(6年)、手芸・ペットボトルキャッププロジェクト・弁天池公園で花を育てる活動(こだま)等

そう思う, ややそう思う の合計		
今年度	93%	昨年度 91%

そう思う, ややそう思う の合計		
今年度	95%	昨年度 97%

次年度に
向けて

キャリア教育は、新学習指導要領で提唱する「社会に開かれた教育課程」を具現化する学習です。天沼小では学習すべき大切な教育活動と捉えて、学年に応じた内容で取り組んでいます。

3年生は教会通り商店街での「お店番体験」、4年生は「地域安全マップ作り」「福祉・ユニバーサルデザイン学習」、5年生は起業家体験プログラム「天沼会社経営プロジェクト(AKP)」、6年生は地域の人たちと交流を行う「わたしたちの天沼」「裁判傍聴」、こだま学級は天沼弁天池公園荻の会の方々と弁天池公園で花を育てる活動などに取り組んでいます。子どもたちからも一定の評価が得られていることから、今後も天沼小の特色として継続していきます。

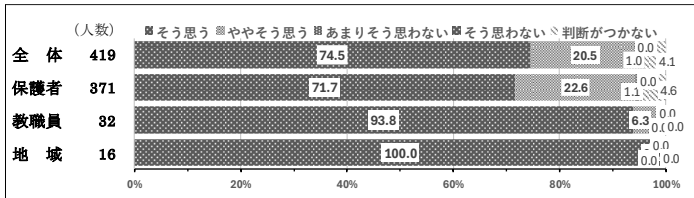
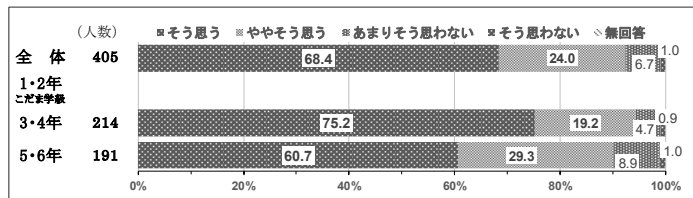
⑩「ほんもの」に触れる多様な活動

設問 19	3・4年生	百人一首・書道・茶道、これから体験する華道・箏（4年）の授業を通して、日本の伝統（でんとう）・文化にふれることを楽しみにしています。
	5・6年生	百人一首、茶道、書道、華道、箏の授業などを通し、日本の伝統・文化のよさに気づきました。
	保護者・教職員・地域	ゲストティーチャーを招いた「ほんもの」に触れる活動 ^(*) が行われており、その活動によって日本の伝統・文化への理解、郷土に対する愛着心や多様な文化への理解が深まっている。

(*)例えば、紙すき、折り紙、茶道、書道、華道、伝統工芸、藍染、和菓子作り、百人一首等

そう思う, ややそう思う の合計		
今年度	92%	昨年度 92%

そう思う, ややそう思う の合計		
今年度	95%	昨年度 93%



次年度に向けて

地域の専門家をゲストティーチャーとしてお迎えしながら実施することができました。子どもたちの肯定率の高さから、理解を示されている取組と言えます。こうした取組は、後述のコラムに記載している通り、本校が長年大切にしている特色ある教育活動の柱の一つです。今後も、日本の伝統・文化に親しみ、日本の良さや多様な文化を理解できる子どもたちを育てるため、学校支援本部と協働しながら取組を進めていきます。

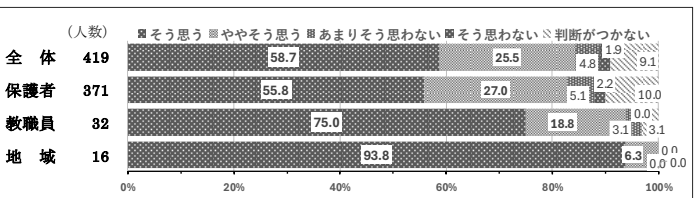
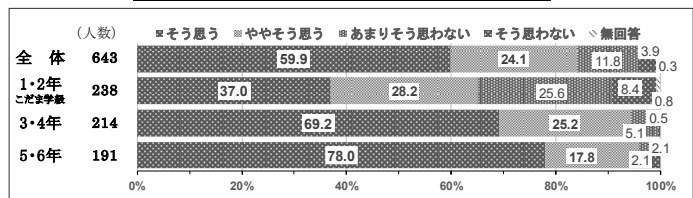
⑪ICT を活用した学習活動の推進

設問 20	1・2年生・こだま学級	授業では、いろいろなことにタブレットを使っています。
	3・4年生	授業において、いろいろなことにタブレットを使っています。
	5・6年生	授業に加え、学校生活のさまざまな場面でもタブレットを活用しています。

保護者・教職員・地域 デジタル教科書の活用やデジタルコンテンツ、AI ドリル等、ICT を積極的に活用した活動が行われている。

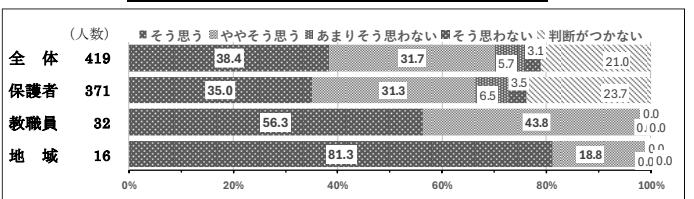
そう思う, ややそう思う の合計		
今年度	84%	昨年度 95%

そう思う, ややそう思う の合計		
今年度	84%	昨年度 86%



設問 21	保護者・教職員・地域	ICT を扱うに当たって、利点だけでなくマナーや危険性も理解させる情報モラルの学習が行われている。
-------	------------	---

そう思う, ややそう思う の合計		
今年度	70%	昨年度 74%



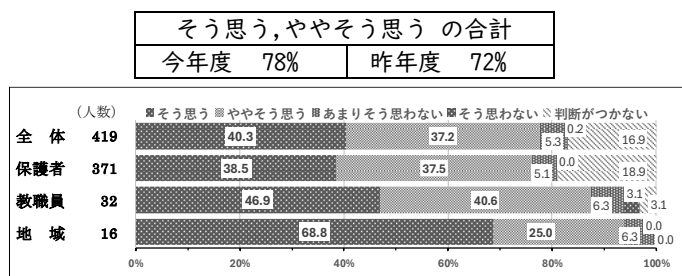
次年度に向けて

各教室に大型モニターが導入されたことによって画面が見やすくなり、ICT が効果的に活用されています。また、デジタル教科書やデジタルドリルを活用することで、子どもたち一人ひとりの学習状況に応じた学習を進めています。学年が進むにつれて、タブレットを用いたプレゼンテーションの機会も多く設けています。技術の進展とともに、利便性が向上するだけでなく新たなリスクも増えていきますので、教員同士で学習をしています。そして、こうした ICT の活用だけでなく、専門家を招聘して情報モラルやプライバシーの侵害などの危険性などを学ぶ授業も行っています。子どもたちが ICT に対する技能を高めつつ安全に活用できるような指導を進めて参ります。

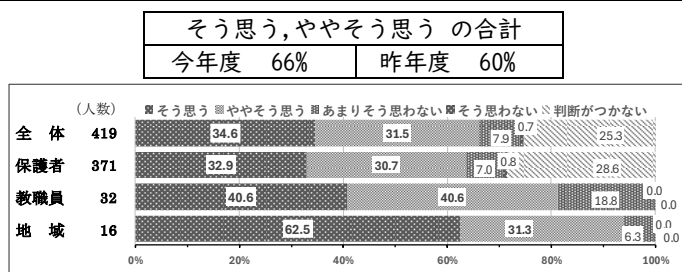
⑮天沼中学校区における小中連携教育活動（AKA）の取組

設問 22 保護者・教職員・地域 天沼中、杳掛小、天沼小の3校間の交流学習の一環として、天沼小の子どもたちが、中学生との交流学習(*)を行っており、中学校生活へのイメージを膨らませるのに役立っている。

(*)例えば、中学1年生と6年生との百人一首大会、中学2年生による1年～4年生の各教科の授業サポート、中学3年生と5年生とのHUG訓練(防災ゲーム)、天沼中で実施する6年生の体験授業と5・6年生の部活動体験等



設問 23 保護者・教職員・地域 3校の教員は合同教員研修によって、情報交換、ノウハウの共有、系統的な教科指導の研究等をしており、こうした活動を通して、小中一貫教育の充実を目指している。



次年度に向けて

AKA(天沼小・杳掛小・天沼中)は、小中一貫教育に向けて、合同で研修・交流し、情報交換を行うことで、小学校と中学校の円滑な接続を図ることを目的としています。

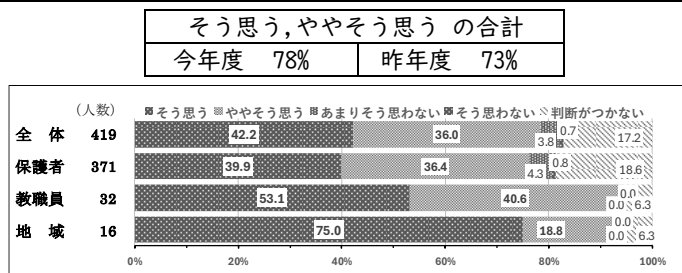
令和7年度は、各校での授業見学を含む3回の合同研修会を実施したり、3校合同CS会議を開催したりしました。

また、AKAの取組として、10月16日には中学3年生が5年生と共に震災時を想定したHUG訓練を行い、1月15日には天沼小の卒業生である中学2年生が天沼小に来て各学年のサポートを行いました。

6年生は天沼中に行き、中学1年生と百人一首合同大会を行い、その後「小中未来サミット」を実施しました。来年度も引き続き、3校の教員や学校運営協議会が交流し、情報交換と研修を行っていきます。

⑯近隣の幼稚園・保育園と連携した「わくわく交流プロジェクト」の取組

設問 24 保護者・教職員・地域 近隣の幼・保育園児と3年生が年に3回の交流活動を行っており、この活動が幼児にとっては「小1プロブレム」の解消、3年生にとっては自己有用感や責任感などを育むのに役立っている。



次年度に向けて

今年度は、幼稚園・保育園の園児たちを招いて、3年生が読み聞かせや昔あそびと一緒に行いました。この取組は学校生活の真ん中である、学校に慣れた中学年の3年生が年下の幼稚園児、保育園児と接することで、小学校入学の頃の新鮮な気持ちを思い出すとともに上級生としての自覚が芽生える機会となっています。

引き続きこうした子どもたちの精神的な成長を促す機会を作っていきます。



「子どもの主体性を引き出す」体験・交流

天沼小学校の特色ある教育活動

天沼小では「特色ある教育活動」として、以下の内容を人が生きていく上で必要な「人間力」と「文化力」を育てる教育活動と捉え、学校支援本部のコーディネートのもと、毎年様々な地域の方、保護者の皆様にご協力いただきながら活動に取り組んでいます。

①日本の伝統・文化理解教育

本物に触れる体験として、茶道・華道・書道・染物・百人一首・折り紙等を行っています。そこには、グローバル社会になっても、日本の伝統文化を大切にしつつ、海外の文化も理解できる心をもって欲しいとの願いが込められています。

②読書活動

本の世界を紡ぎ出す「素話」や「絵本の読み聞かせ」など、物語に触れる体験とともに、読書に親しむ場を作っています。これには「想像力豊かな人間性」をはぐくんで欲しいとの願いが込められています。

また、学校支援本部読書活動プロジェクトのメンバーは、毎月「絵本の会」という勉強会を行いながら、子どもたちのために活動をしています。

③キャリア教育

地域とかかわりながら、「社会の一員としての自覚」と、自分の役割を果たす「責任感」を養い、前向きに生きていって欲しいとの願いが込められています。

17 ページにはご協力いただいている団体の一部をご紹介しますしていますが、多くの方々のお力をいただきながら進めています。

天沼小学校 ICT 活用等の学習

天沼小では、よりよい教育活動につなげるため、以下の学習を教職員の実践研究を進めながら取り組んでいます。

① ICT を活用した授業の展開

3年生以上では、普段からタブレット端末をひとつのコミュニケーションツールとして活用しています。練習問題に取り組んだり、教科での調べ学習、子どもたちの考えを交流し合い、表現したり。また、動きを撮影して振り返りに使ったり、ソフトを活用しながら論理的な思考や判断力を養ったりと、ICTの有効活用をしています。

② 情報モラルの向上

情報を活用すればするほど、モラルの大切さが分かります。学校運営協議会においても、保護者・地域関係者からの意見をもとに、「情報教育とモラル教育は並行して進めることが必要」と考えています。端末やインターネットの活用は、これまで以上に学習の可能性を広げますが、同時に、守るべきルールをしっかりと守っていくことで、確実な学びにつながっていきます。

③ アナログとデジタル、双方の良いところを生かす

デジタルの活用をしていると、字が書けなくなる？本を読まなくなる？という不安がよぎりますが、今まで通り黒板に板書すること、紙に文字を書くことなどを併用しながら、互いの利点を合わせてより良い教育を行うことが必要です。これからはチャレンジタイムなども活用し、さらにバランスを考えながら日々の学校教育を進めていきます。

④ 保護者の皆様（3年生以上）へのお願い

タブレットは毎日持ち帰ります。教員の目の届かない場所で使うことになるため、使い方、使う時間など、各ご家庭でのルールづくりをしていただくことも大切です。ぜひご協力ください。

5.

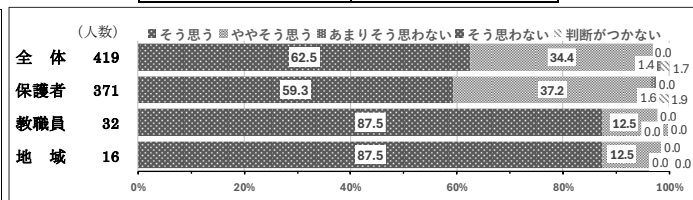
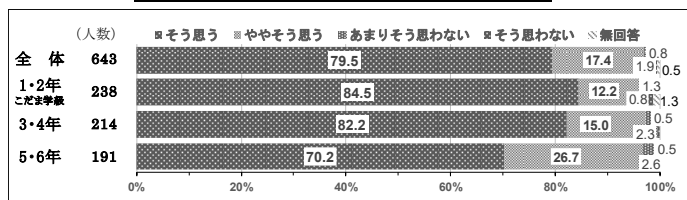
家庭・地域との連携の推進・強化

②学校施設の安全、防犯、防災への取組

- 設問 25 1・2年生・こだま学級 ひなんくんれんでは、自分を守る方法を教わっています。
 3・4年生 避難訓練などで、災害の時は自分の身を守る方法を学んでいます。
 5・6年生 避難訓練などで、災害の時に自分の身を守る方法を学んでいます。
 保護者・教職員・地域 避難訓練など多様な取組^(*)によって、子どもたちが自分で身を守るための能力が育まれている。
^(*)例えば月一回の避難訓練、引き取り訓練、地域を含めた訓練、セーフティ教室や防災教育等

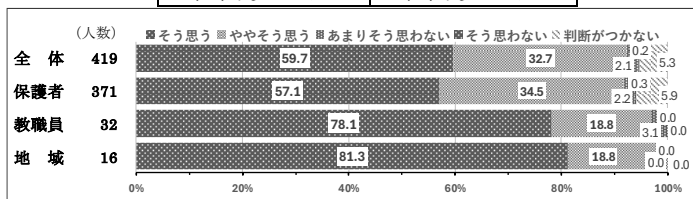
そう思う, ややそう思う の合計	
今年度	97%
昨年度	98%

そう思う, ややそう思う の合計	
今年度	97%
昨年度	96%



- 設問 26 保護者・教職員・地域 学校施設の安全・防犯・防災設備や仕組みを導入することで、安全の確保に向けた取組^(*)が行われている。
^(*)例えば、毎月一回学校による設備の点検、学期毎に行うPTAと連携した設備の点検、不審者訓練の実施等

そう思う, ややそう思う の合計	
今年度	92%
昨年度	92%



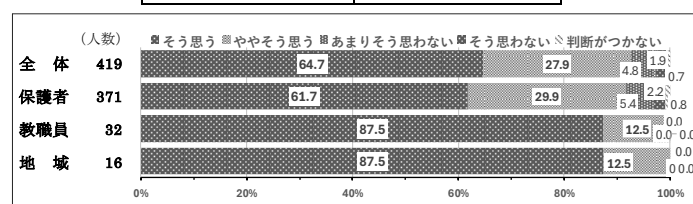
次年度に向けて

災害時への備えについて、様々な場面を想定した避難訓練を実施しています。また、天沼中への二次避難訓練を実施しました。今後も段階の通行ルール(右側通行、駆け上がらない、駆け下りない等)を徹底していきます。
 引き取り訓練はいざという時のために必要な危機管理の取組です。保護者の皆様も積極的に、かつ整然とご参加をお願いいたします。

②迅速かつ的確な情報の公開・提供

- 設問 27 保護者・教職員・地域 学校を取り巻くさまざまな情報が、校長室だよりをはじめとする学校ホームページや配信ソフト(tetoru)などを通して、迅速かつ的確に提供^(*)されている。
^(*)例えば、あまぬまだより、給食だより、図書だより、保健だより、カウンセラー通信等

そう思う, ややそう思う の合計	
今年度	93%
昨年度	93%



次年度に向けて

学校ホームページにてほぼ毎日更新されている「校長室だより」での配信が学校の様子を知っていただく一番の機会となっています。
 あまぬまだより、給食だより、学年毎の連絡は「tetoru」アプリを通じて行っています。

学校からの連絡は主として「tetoru」アプリを通じて行いますので、学校から配信された情報をいち早く受け取れるように「通知を許可する」にアプリの設定をしていただくようお願いいたします。

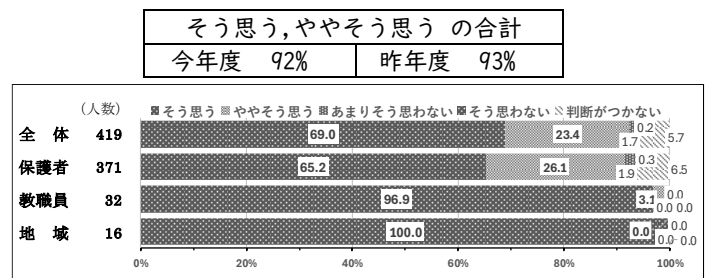
特に、あまぬまだよりは、各学年の行事予定や、持ち物についての案内が記載されていますので、確認のために必ず目を通すようにしてください。

緊急時には、「tetoru」とともに「校長室だより」で情報提供することも検討していますので、こちらまご確認ください。

②学校支援本部（あまぬまワンダラズ（AW））の協力による教育活動の実施

設問 28 保護者・教職員・地域 天沼小では、学校支援本部（あまぬまワンダラズ）との協働によって、地域の力を生かした様々な教育活動(*)が行われていることが、天沼小の特徴となっている。

(*)例えば、ゲストティーチャーやサポーターのコーディネート、校外学習等の引率、学習補助、「あまぬまハッピーさたでい」や「あまぬまハッピーくらぶ」の運営等



次年度に向けて

天沼小学校の教育活動において、学校支援本部の存在が欠かせないものとなっていることが、数値からも、皆様の自由筆記からも見える結果になっています。

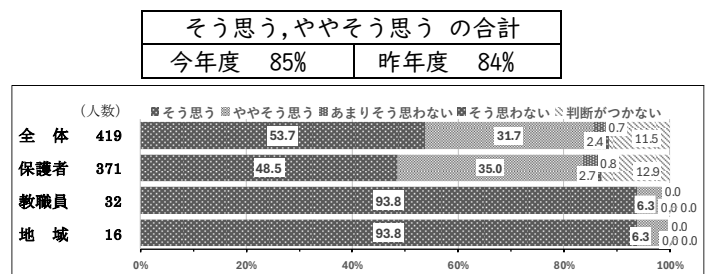
「地域」と「学校」とをつなぐ組織である「学校支援本部」（あまぬまワンダラズ）によって地域連携を実現させています。

例えば、校外学習や学校行事の引率補助や、学習補助、日本の伝統・文化理解教育や、キャリア教育をはじめとした、様々な授業への専門家のコーディネートなどが学校支援本部を通じて行われています。

このように、天沼小では各学習や行事に地域の方々の助力をいただいております、教職員と地域とが一緒になって、レベルの高い学習を実現しています。

③「コミュニティ・スクール（地域運営学校（CS））」としての学校運営の進化

設問 29 保護者・教職員・地域 天沼小には、校長と共に地域・保護者の代表や学識経験者などで構成される学校運営協議会がある。子どもたちが質の高い教育を受けられるよう様々な検討を行っており、この「みんなの天小アンケート」で寄せられた評価・ご意見を生かした「地域運営学校＝コミュニティ・スクール（CS）」としての取組を進めている。



次年度に向けて

学校運営協議会では、今回のアンケートでいただいた声を次年度の教育課程に反映させていくために、学校や地域の方々との連携をさらに深めていきます。

子どもたちがさらにレベルの高い教育を受けることができるよう取り組んでまいりますので、地域・保護者の皆様に、さらなるご理解とご協力をお願いいたします。



家庭・地域との連携の推進・強化

連携・協働してくださっている地域の皆さま

天沼小と共に子どもたちを育んでくださっている皆様をご紹介します。

ここには主に杉並区内の主な連携・協働団体を掲載しますが、そのほかにも、多くの地域協力者の方々にお世話になっています。

天沼地区町会

- 天沼一丁目町会
- 天沼二丁目町会
- 天沼二丁目三よし会
- 天沼尚和会
- 天沼三丁目西町会
- 天沼三丁目あかるい町会
- 本天沼西町会

商店会

- 教会通り新栄会
- 寿通り商店街
- 荻窪駅前商店街
- 白山通り商店街
- 荻窪銀座商店街

天沼八幡神社

- 天沼熊野神社
- 東京青年会議所杉並区委員会
- 杉並かるた会
- 弁天池公園育て組「荻の会」
- 東京地下鉄株式会社荻窪駅
- サミット本天沼店
- 天沼児童館
- 上荻児童館
- 民生・児童委員
- 杉並区スポーツ推進委員
- コミュニティふらっと本天沼
- 杉並区社会福祉協議会
- ケア24
- 子ども・子育てプラザ天沼

杉並ボランティアセンター

- すぎなみ協働プラザ
- (公益社団法人) 杉並区シルバー人材センター交通安全指導員
- FMすぎなみ
- 荻窪警察署
- 杉並区役所
- 杉並区教育委員会
- 郷土博物館分館
- 地域の施設
- 杉並第五小学校同窓会
- あまぬまおやじの会
- 天沼小学校同窓会
- 天沼小学校 PTA
- など

いつもありがとうございます。次年度以降またお世話になります！

天沼小の「いじめ」を生まない・許さない指導

保護者の皆様にとって「いじめ」に対しての関心は大きいことでしょう。

天沼小学校では、いじめを生まない、許さない指導を中心として、「いじめ防止基本方針」に基づき、未然防止・早期発見・早期解決ができるように組織的に取り組んでいます。保護者の皆さまも、ぜひご家庭で「いじめ」はいけないこと等、子どもたちへの声がけにご協力ください。

○未然防止の取組

(1) 子どもが安心して生活できる学校づくり（いじめを生まない指導）

自己肯定感や自尊感情を高めるために学級や学校全体を通して、子どもたちが活躍できる場面を計画、実践しています。また、たてわり班活動や委員会、クラブ活動等の異学年交流を通して一人ひとりが活躍できる場や機会を意図的に設定し、思いやりの心を育てることを目指しています。

(2) 教職員の意識向上（いじめを許さない指導）

毎週金曜の職員夕会では情報交換を全教職員で行っています。また、年2回自己の取組の振り返りを行い、指導の見直しに役立てています。

互いを認め合う心情を育てていくことができるような授業作りを目指しています。

○早期発見

(1) アンケートの実施

毎学期1回、全児童で「いじめアンケート」や、月1回程度の「先生、あのね」アンケートを実施しています。その結果を基にして、学級担任等が聞き取りを詳しく行い、早期発見ができるように努めています。

(2) 学級担任、専科教員による日常的な子どもへの声掛け

登校時の専科教員の挨拶、教室での学級担任の声掛けなど、多くの教職員が子どもたちと関わりながら様子の変化を見逃さないようにしています。

○早期対応「組織的な取組」

「いじめ」を発見した場合には、校内の「いじめ対策委員会」を中心に早期対応を心掛けています。発見から解決までのフローチャートを参考にして情報交換を行い、子どもたち一人ひとりに配慮しながら解決に向けた取組を行っています。また、解決後も子どもたちの様子の観察を継続して行うようにしています。